

1. 評価結果概要表

作成日 平成12年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1870300272
法人名	医療法人 斎藤医院
事業所名	グループホーム藤の都
所在地	〒915-0802 福井県越前市北府三丁目7-25 (電話) 0778-25-6002

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成22年1月25日

【情報提供票より】(平成 21 年 10 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人斎藤医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とする当該ホームは、武生地区の住宅や農地が混在する中にあり、リビングの前は田んぼが広がり、田植えから稲刈りまで居ながらにして季節を感じる事が出来ます。法人医院との24時間連携体制と毎日の看護師の訪問により、利用者の健康管理がなされ、安心の暮らしが構築されています。また法人院長自らが講師を務め、定期的に研修を開催する等、職員のスキルアップにも努めています。毎週作業療法士が訪問し、指導を受けてさまざまな作品作りをして、それが利用者の楽しみにも繋がっています。半数の職員がユニットを歩き来し多くの利用者に関わりを持ち支援できるとともに、職員の働きやすい環境にもなっており、馴染みの関係が築かれ利用者が安心して暮らせるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後に全体会議を開き改善点について話し合い、定期的な家族への報告として、毎月個別の便りを出す取り組みを行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、職員にページを振り分け記入してもらい、ユニットリーダーや管理者がまとめて作り上げています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に、家族、市職員、区長、理事、訪問看護師、職員等が参加し開催されています。会議では、ホームの現状についてや活動報告がなされる他、参加者からの意見や要望について話し合われたり、助言を頂き運営に反映させています。また災害時の協力体制について地域の自警隊と確認合っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情や意見は面会時や運営推進会議の際に積極的に聞くように心がけています。また外部の苦情機関を書面に掲載し、家族がより意見を言いやすい環境を整えています。出された意見は職員で話し合い、改善に努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会への加入はしていませんが、区長から市の広報をもらい地域の情報を得たり、回覧板にグループホーム通信を載せてもらっています。近隣の方から野菜や花を頂いたり、ホームの納涼祭には地域に参加を呼びかけています。小、中学生の体験学習を受け入れています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に職員間で話し合い、「地域や家庭の結びつきを大切に、明るく家庭的な雰囲気」とのホーム独自の理念を作り上げている。利用者と職員が地域において、笑顔で生活できるようにとの願いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のもと、運営規定に目を通して自分たちの業務を再確認して日々のケアにあたっている。また月に一度の全体会議で話し、確認合っている。理念は各ユニットのリビングに誰からもよく見えるように掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はしていないが、区長から市の広報をもらい地域の情報を得たり、回覧板にグループホーム通信を載せてもらっている。近隣の方から野菜や花を頂いたり、ホームの納涼祭には地域に参加を呼びかけている。小、中学生の体験学習を受け入れているが、それ以上の交流には発展しないのが現状である。	○	体験学習をきっかけに、近隣の学校や幼稚園、保育園に働きかけ、行事に参加したりホームに来訪してもらうなどの取り組みをされてはいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後に全体会議を開き改善点について話し合い、定期的な家族への報告として、毎月個別の便りを出す取り組みを行っている。また今回の自己評価票は、職員二人ずつにページを振り分け記入してもらい、ユニットリーダーや管理者がまとめて作り上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に、家族、市職員、区長、理事、訪問看護師、職員等が参加し開催されている。会議では、ホームの現状についてや活動報告がなされる他、参加者からの意見や要望について話し合われたり、助言を頂き運営に反映させている。また災害時の協力体制について地域の自警隊と確認合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市福祉課室長に参加頂き、その際ホーム通信を手渡している。何かあれば市役所に出向き、相談に乗ってもらうなどしている。また2ヶ月毎に市の介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月面会の機会を確保するために請求書を取りに来てもらっており、その際に利用者の様子や健康状態を口頭で伝えたり、個別の手紙を書き報告している。また金銭管理は預かり金とし、面会時に収支報告しレシートを返却している。また3ヶ月毎にホーム便りを発行し、その中で職員の異動についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や意見は面会時や運営推進会議の際に積極的に聞くように心がけている。また外部の苦情機関を書面に掲載し、家族がより意見を言いやすい環境を整えている。出された意見は職員で話し合い、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動以外の離職はなく、管理者が職員の悩みや相談にのったり、慰安旅行や親睦会を催している。また職員の配置を半年ごとに固定勤務とフリー勤務とし、ユニット間を兼務することでストレスの軽減とスキルアップを図り、すべての利用者との馴染みの関係が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画に沿って、全職員対象の研修を院長自らが講師を務め定期的に行っている。また外部研修の案内は事務所に掲示し希望を募ったり、指名して研修に参加してもらっている。研修後は報告書を提出し、資料は全員に配布し全体会議の際に他の職員に伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡協議会に加入し、管理者のみならず、職員間の交換研修や見学をし交流を図っている。管理者が役員を務めており、今後はスキルアップの研修を企画している。また法人の3ホームで親睦会を作り交流したり、日頃より散歩の途中で立ち寄り、利用者を含めてお茶を共にしたり、会話を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なるべく利用前に本人や家族にホームを見学してもらっている。また希望があれば空き部屋を利用したのショートステイで馴染んでもらうことも可能である。また法人の施設からの入居も多く、入院先や施設を訪問し話を聞くようにしている。入居後も3ヶ月くらいは注意して見守り、時には家族の協力をも得て徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビを見たり話をする中で、共通の話題を取り上げ、花の別名や郷土料理、野菜の作り方、生活の知恵など何でも聞いて教えてもらうように心がけている。職員はあらゆる場面で利用者と共感し、互いに助け合いながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いは日々の会話の中から把握している。なかなか言葉に出せない利用者に対しては、表情や行動から把握したり、家族に聞いたりしている。情報はセンター方式のアセスメントを利用したり、申し送りノートで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の会話や面会時に聞いた利用者、家族の希望や医師の意見をもとに、担当職員が原案を作り、職員や看護師が参加して行われるカンファレンスで話し合わせ修正し、計画作成担当者がケアプランを作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎にカンファレンスを開催し評価し見直しを行っている。変化が無い場合は6か月ごとに更新し、状態に変化がある利用者には、その都度見直しケアプランを変更している。日々のケアの中で、気が付いたときにモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助や利用者の希望による嗜好品等の買物、利用者が以前住んでいた地域へ出かけたりしている。法人の協力を得て毎週作業療法士の訪問を受け、利用者は手作業の指導を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に希望を聞いてかかりつけ医を決めているが、医療法人であることで法人病院や施設からの入居者も多く、全員がホームの協力医を利用している。協力医の定期的な往診があり、毎日看護師が訪れ、健康管理を行っている。また夜間や緊急時も連絡可能で、医療面での安心が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは家族の希望があれば看取りを行う方針であり、入居時に家族に対して説明している。これまでに経験はないが、重度化した場合は家族の希望を聞いて主治医と面談し、1週間毎に確認して書面を交わす体制がある。職員間でも方針を共有し、法人の協力体制も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々に合わせた呼び方で対応しているが、利用者に対する言葉遣いが乱雑にならないよう、全体会議の中で繰り返し確認し合っている。個人のファイルは事務所の鍵付きの書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、個々のペースに合わせて希望に応じるよう心がけている。すぐに対応できない場合も、理由を説明して納得してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人栄養士が大まかなメニューを決めているが、利用者の希望を聞いたり、朝広告を見てメニューを変更することもある。毎日食材の買物に出かけ、利用者も一緒に出かけることもあり、下ごしらえや盛り付け、片付け等を一緒に行なっている。昼食前は口腔体操を行い、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に2日とし、朝から夕方までの好きな時間に入ってもらっている。また各ユニットの入浴日を変えることで、拒否があつたり、体調により入浴できなかった利用者も次の日に入れるよう支援している。状態により入浴できない場合は、清拭や足浴等の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオル干しを当番制としたり、草むしりや調理の下ごしらえを役割としている利用者もいる。毎週作業療法士の指導を受けての作品作りやパズル、貼り絵等は利用者の楽しみとなっている。またみんなで歌を歌ったり、散歩や買い物に出かけることが気分転換となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気の良い日に散歩や買い物に出かけている。また買物ツアーを企画したり、行事として花見や菊人形展に出かけているが、重度化に伴い利用者の意思もあり、外出しにくくなっているのが現状である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中の施錠はしていないが、防犯上各ユニット入り口は施錠しており、家族には説明し了承を得ている。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者が出たそうにしている場合は、一緒に散歩等に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回昼夜を想定して避難訓練を開催している。防災について熱心に取り組んでいる地域であり、ホームの避難訓練に区長や地域の自警隊に参加してもらったり、災害時の取り組みについて地域が集まり意見交換会を開催している。またホームは災害時の地域の独居高齢者の一時的な受け入れ場所にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量や水分量はその都度チェック表に記載し管理している。法人の管理栄養士によるチェックや指導により、栄養バランスが確保でき、主治医の指導を受け、ご飯や塩分の調整をしている。また状態に応じてトロミをつけたり、食材を刻んだりして提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は各所に季節の花を活け、庭に花を植えたり目の前に広がる田んぼの景色で季節を感じる事が出来ている。リビングは広く明るく、ソファーや畳コーナーを設け、廊下に椅子を配し、寛ぎの空間が確保されている。手作りのカレンダーや共同の貼り絵、作業療法士の指導で作られた作品等が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ、洗面台、ベッド、タンス、テーブルと椅子が用意されており、職員の心配りで季節の花が洗面台に飾られている。利用者は自宅から家具やテレビ、ロッキングチェア、家族の写真等を持参し、居心地良く過ごされている。また居室入り口に暖簾をかけた、自作の飾りで自室がわかり易い工夫がなされている。		